

## あいち食育いきいきプラン2015（案）の修正等について

### 1 パブリック・コメントの状況及び対応

#### (1) 意見募集期間

平成23年2月10日～3月11日（30日間）

#### (2) 意見の提出状況

24名（男性2、女性20、法人1、不明1）

54件

#### (3) 寄せられた意見の内訳

プランの項目	修正を要する意見	修正を要しない意見				計
		感想	既に記載	推進時に対応	その他	
(総論的な意見)		2	1	1		4
プラン作成の経緯						0
プラン作成の基本的な考え方						0
これまでの取組の評価と今後の展開	4	1	2			7
あいちの目指す食育	3	1	4		2	10
県民の主体的な取組	1			1		2
県や関係団体等の取組	1-1 食を通じて健康な体をつくるために		2	3	3	8
	1-2 食を通じて豊かな心を育むために	3	1	3		8
	1-3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2		1	2	6
	2 食育を支えるために		3	6		9
合計	13	10	20	7	4	54

#### (4) プラン2015（案）における対応・修正案

意見などの要旨	これまでの記述	対応・修正案
<p>&lt; これまでの取組の評価と今後の展開 &gt;            &lt; 1-1 食に関わる「体」の視点 &gt;            p7 「過度な痩身志向がみられます」の根拠を示してほしい。            根拠を追加した。</p>	<p>一方、若い女性においては「やせ」の割合が高く、太っていないにもかかわらず自らを太っていると認識するなど、過度な痩身志向がみられます。</p>	<p>一方、若い女性においては「やせ」の割合が高く、太っていないにもかかわらず自らを太っていると認識（平成20年度に県内の大学生を調査。実際の肥満女性は全体の6%にもかかわらず、女性の約6割が「自分は太っている」と回答。）するなど、過度な痩身志向がみられます。</p>
<p>&lt; 1-2 食に関わる「心」の視点 &gt;            p10 取組の方向に「社会全体での対応を図る」とあるが、漠然としている。            具体的に記載した。</p>	<p>コミュニケーションをとりながらの食事は、心のいやし・心の安定をもたらします。食を楽しむなど生活のゆとりを確保するために、社会全体での対応を図ります。</p>	<p>コミュニケーションをとりながらの食事は、心のいやし・心の安定をもたらします。食を楽しむなど生活のゆとりを確保するために、<u>仕事と生活の調和や男女共同参画を推進するなど、社会全体での対応を図ります。</u></p>
<p>&lt; 1-3 食に関わる「環境」の視点 &gt;            p11 食べ残しの原因、なぜ食べ残しが出てしまうかも考慮して記述を。            食べ残しの原因を記述した。</p>	<p><u>飽食ともいわれる中で、食べ残しや消費期限・賞味期限切れなどに伴う食品の廃棄（食品ロス）が家庭、食品産業で発生しています。また、</u>  <u>外食産業においては、宿泊施設や結婚披露宴、宴会で、多くの食べ残しが発生しています。</u></p>	<p>食べ残しや消費期限・賞味期限切れなどに伴う食品の廃棄（食品ロス）が、<u>家庭や食品関連事業者から発生しています。</u>  <u>外食産業、特に宿泊施設や結婚披露宴会場、宴会場においては、客がメニューの量や内訳を選択できない等の原因で多くの食べ残しが発生しています。</u></p>

意見などの要旨	これまでの記述	対応・修正案
<p>&lt; 2 県民の意識・行動の変化と食育を支える取組の評価 (3) 愛知県の強み・地域特性 &gt; p14 「全国有数の農業県」とあるが水産も盛ん。水産業も記述に盛り込んだ。</p>	<p>盛んな農業・食品製造業と豊かな食文化 愛知県は、全国有数の農業県、食品製造県であり、また、長年培われてきた地域色豊かな食文化も数多くあって、食に関する様々な体験をしたり、食文化に触れる機会に恵まれています。</p>	<p>盛んな農業・水産業・食品製造業と豊かな食文化 愛知県は、全国有数の産出額を誇る農業が生まれ、豊かな漁場に支えられた水産業も盛んで、食品製造業の出荷額も全国有数です。また、長年培われてきた地域色豊かな食文化も数多くあって、食に関する様々な体験をしたり、食文化に触れる機会に恵まれています。</p>
<p>&lt; あいちの目指す食育 &gt; &lt; 3 (1) ライフステージと生活場面に応じた食育 &gt; p18 「家族」や「親子」、また「学区」や「町内」という最小単位のキーワードが入らないか。  p18 生活場面として児童館やコミュニティセンター・スーパー・産院や病院等の施設は考えていないか。  各生活場面の概要等を説明する文を新たに設けるとともに、「イ みんなでいっしょに進める食育」の記述も見直した。</p>	<p>(「(2) みんなでいっしょに進める食育」のうち、各関係者の役割の記述が、「(1) ライフステージと生活場面に応じた食育」の生活場面の記述と混在し、整理できていなかった。)</p> <p>(1) ライフステージと生活場面に応じた食育 あらゆる世代の県民が健全な食生活を送り、心身ともに健康で豊かに暮らすためには、生涯を通じた間断のない食育が重要です。このため、乳幼児から成人、高齢者に至るまで、生涯にわたってそのライフステージと生活場面に応じた食育を進めます。</p> <p>(ライフステージと生活場面の図)</p> <p>(2) みんなでいっしょに進める食育 食育に関する取組の実効性を高めるためには、食にかかわる様々な関係者が、その役割と特性を活かしつつ、互いが密接に連携・協力して緊密なネットワークを築いていくことが重要です。このため、愛知県食育推進会議を中心にその強化に努めます。</p> <p><u>保育所・幼稚園の役割</u> 乳幼児期から、発達段階に応じて豊かな食の体験を積み重ね、楽しく食べる体験等を通して食への関心を育み、食を営む力の基礎を培うことが重要です。このため、家庭や地域社会と連携を図りながら、全職員が協力して食育を実施します。</p> <p><u>学校(小学校～大学)の役割</u> 子どもたちが生涯にわたり心身の健康と豊かな人間性を育むため、望ましい食習慣を身に付け、食の自己管理能力を培うことができるよう、家庭や地域と連携・協力し、様々な体験活動も取り入れながら、食育の取組を推進します。</p> <p><u>【小中学校・特別支援学校】</u> 栄養教諭等が中心となって、給食の時間や特別活動、関連する各教科など、学校教育活動全体を通じた食育を一層推進します。</p> <p><u>【高等学校】</u> 保健体育や家庭科などの教科の中で食育の観点から指導を行うために、適切な啓発資料の活用や教職員に対する研修の充</p>	<p>(p18～21の記述を大きく見直し、生活場面の記述と、関係者の役割の記述を分離した。)</p> <p>(1) ライフステージと生活場面に応じた食育 あらゆる世代の県民が健全な食生活を送り、心身ともに健康で豊かに暮らすためには、生涯を通じた間断のない食育が重要です。このため、乳幼児から成人、高齢者に至るまで、生涯にわたってそのライフステージと生活場面に応じた食育を進めます。</p> <p>(ライフステージと生活場面の図)</p> <p><u>【家庭】</u> 家庭は日常生活の基盤であり、家族、とりわけ子どもの食育の基礎を形成する場として重要です。食卓等での団らんなどを通して家族間で食に関する情報を共有し、食への関心を高めたり食文化・作法を継承するとともに、子どもに対しては、<u>保育所・幼稚園・学校等の関係者と協力しあって、望ましい食習慣を身に付ける場となります。</u> また、様々な関係者が提供する食に関する勉強会や体験的な活動の情報を受信する場でもあり、それらに参加して学んだ知識と技術を家族に伝える場でもあります。</p> <p><u>【保育所・幼稚園】</u> 乳幼児期から、発達段階に応じて豊かな食の体験を積み重ね、楽しく食べる体験等を通して食への関心を育み、基礎的な食習慣を身に付ける場です。このため、<u>保護者組織や医療・保健関係者を始め、地域社会の関係者、あるいは小学校関係者と連携を図りながら、全職員が協力して食育を実施します。</u></p> <p><u>【学校(小学校～大学)】</u> 子どもたちが生涯にわたり心身の健康と豊かな人間性を育むため、望ましい食習慣を身に付け、食の自己管理能力を培うとともに、食を通じて感謝の心を育み、社会性を身に付ける人間関係の形成能力を養う場です。このため、<u>P T Aや医療・保健関係者を始め地域社会の幅広い関係者と連携・協力し、食育の取組を推進します。</u></p> <p><u>【職場】</u> 若い世代や働く世代への食育は、健康管理や生活習慣病予防の点から重要なため、職場において積極的に取り組むことが必要です。<u>このため、経営者や労働者団体を中心に、健康診断等における医療・保健関係者との連携や、社員食堂を活用した食品関連事業者との連携により食育を実施します。</u></p> <p><u>【地域(上記以外の広範にわたる生活場面)】</u></p>

意見などの要旨	これまでの記述	対応・修正案
	<p>実などに努めます。</p> <p><b>【大学】</b> 管理栄養士養成校や食品関連学科などにおいて、学生による一般大学生や地域等への食育活動を行ったり、学生食堂等を活用して食育の実践を促進します。</p> <p><b>職場の役割</b> 若い世代や働く世代への食育は、健康管理や生活習慣病予防の点から重要なため、職場において積極的に取り組むことが必要です。従業員の望ましい食生活の実践のため、健康診断や社員食堂などを活用して情報提供を行うなど健康管理に努めます。</p> <p>また、家族で食卓を囲むことができるような環境づくりに努めます。</p> <p><b>地域の役割</b> <b>【医療・保健・栄養関係者】</b> 肥満や過度な痩身、健全な口腔機能の維持などの指導や情報提供、栄養相談など食と健康の観点から食育に取り組みます。 <b>【農林水産業・食品産業】</b> 安全で環境に配慮した生産物や食品を県民に提供するとともに、生産や製造・加工・流通工程等の情報提供や、体験や交流の機会を提供するなど、食への理解促進を図る取組を進めます。 <b>【ボランティア・NPOなどの地域活動団体】</b> 料理教室や食育劇など多様な手法により、食生活の改善にかかる様々な情報や技術の提供や、食を通じた地域での交流、次世代への食文化の継承などを通して、地域からの食育の支援や実践を促します。</p> <p><b>市町村の役割</b> 食育を推進するためには、県民に最も身近な存在である市町村が、多様な関係者と連携・協力しながら、地域の実状に応じたきめ細かい取組を進めることが重要です。</p> <p>このため、地域の特性を生かした市町村食育推進計画の作成を推進するとともに、その効果的な実施のため、地域の食文化の継承や再発見、様々な活動団体・グループなどのネットワーク化を図ります。</p> <p><b>県の役割</b> 広域的自治体として、市町村、教育、保育、社会福祉、医療・保健、農林水産業、食品産業等との連携を密にしながら、県民運動として食育を推進します。</p> <p>食育関係者相互の緊密な関係作りに努め、取組の連携や情報共有の調整役を果たすとともに、食育情報の提供等の支援に努めます。</p>	<p>県民一人ひとりがいつでも、どこでも食育に接し、生涯を通じた食育の実践が図られるよう、学区や町内といった身近な地域社会を軸に、多様な関係者が、児童館、コミュニティセンター、医療機関、薬局、食品販売店、食堂など様々な場面において食育に取り組みます。</p> <p>(2) みんなでいっしょに進める食育 食育に関する取組の実効性を高めるためには、食にかかわる様々な関係者が、その役割と特性を活かしつつ、互いが密接に連携・協力して緊密なネットワークを築き、県民運動として展開していくことが重要です。このため、愛知県食育推進会議を中心にその強化に努めます。</p> <p>(みんなでいっしょに進める食育の図)</p> <p><b>保育所・幼稚園・学校関係</b> 子どもの指導と、その保護者への情報提供が基本であり、保育・教育活動や給食・弁当の時間等での指導を通じて、地域社会の関係者と連携した体験活動も取り入れながら、発達段階に応じた食育を推進します。</p> <p><b>職場関係(経営者・労働者団体)</b> 従業員の望ましい食生活の実践のため、健康診断や社員食堂などを活用して情報提供を行うなど健康管理に努めます。また、家族で食卓を囲むことができるような環境づくりを推進します。</p> <p><b>医療・保健・栄養関係者</b> 肥満や過度な痩身、健全な口腔機能の維持などの指導や情報提供、栄養相談など食と健康の観点から食育に取り組みます。</p> <p><b>農林水産業・食品産業</b> 安全で環境に配慮した生産物や食品を県民に提供するとともに、生産や製造・加工・流通工程等の情報提供や、体験や交流の機会を提供するなど、食への理解促進を図る取組を進めます。</p> <p><b>ボランティア・NPOなどの地域活動団体</b> 料理教室や食育劇など多様な手法により、食生活の改善にかかる様々な情報や技術の提供や、食を通じた地域での交流、次世代への食文化の継承などを通して、地域からの食育の支援や実践を促します。</p> <p><b>市町村</b> 食育を推進するためには、県民に最も身近な存在である市町村が、多様な関係者と連携・協力しながら、地域の実状に応じたきめ細かい取組を進めることが重要です。</p> <p>このため、地域の特性を生かした市町村食育推進計画の作成を推進するとともに、その効果的な実施のため、地域の食文化の継承や再発見、様々な活動団体・グループなどのネットワーク化を図ります。</p>

意見などの要旨	これまでの記述	対応・修正案
	<p>食育に関する活動を行う団体等の協力も得つつ、愛知県食育推進ボランティア等の人材を育成し、その活動の充実を図ります。</p> <p>(みんなでいっしょに進める食育の図)</p>	<p>県 広域的自治体として、市町村や多様な関係者との連携を密にしながら、県民運動として食育を推進します。 このため、相互の取組の連携や情報共有の調整役を果たすとともに、食育情報の提供等を支援します。また、食育活動を行う人材の育成と活動の充実を図ります。</p>
<p>&lt; 3 ( 2 ) みんなでいっしょに進める食育 &gt; p22 生活場面ごとの取組内容や連携がイメージできる工夫があるとよい。 連携についてイメージできる図を追加した。</p>	<p>(なし)</p>	<p>(関係者の取組連携のイメージ図を追加。)</p>
<p>&lt; 県民の主体的な取組 &gt; p31 「かかりつけ医を持ち、」に「かかりつけ歯科医」も追加してほしい。追加した。</p>	<p>かかりつけ医を持ち、定期的に健康診断を受ける。</p>	<p>かかりつけ医やかかりつけ歯科医を持ち、定期的に健康診断を受ける。</p>
<p>&lt; 県や関係団体等の取組 &gt; &lt; 1 - 2 食を通じて豊かな心を育むために &gt; p40 高齢者の孤食対策について、お弁当の宅配や買い物代行などを通じて人とのふれあいが実感できるようにする必要。記載を追加した。  p40 高齢になると食事を作る意欲を失うため、持続できるといい。記載を追加した。</p>	<p>ウ 高齢者の孤食対策 [地域] 高齢者単身世帯の増加により懸念される高齢者の孤食に対応するため、市町村やNPO等が連携して、高齢者同士や地域の子ども達との共食の場づくりなどを進めます。</p>	<p>ウ 高齢者の孤食対策等 [地域] 高齢者単身世帯の増加により懸念される高齢者の孤食や食事をつくる意欲の減退に対応するため、市町村やNPO等が連携して、高齢者同士や地域の子ども達との共食の場づくりなどを進めます。 また、配食サービスや買い物代行などにより、食を通じた人とのふれあいの機会づくりに努めます。</p>
<p>p40 豊かな心を育むために、調理の実践についてももっと積極的に打ち出すべき。 ( 2 )の前文に、自ら料理する機会の増加について、その意義とともに明記した。</p>	<p>( 2 ) 体験や交流を通じた食の理解促進 体験に勝る食育はありません。家庭・地域・学校等において、作物の栽培や調理の体験、食品の流通加工現場の見学などの推進や生産者との交流に必要な情報の提供等を行います。</p>	<p>( 2 ) 体験や交流を通じた食の理解促進 体験に勝る食育はありません。食べることへの感謝の心を育てるため、家庭・地域・学校等において、自ら料理をする機会を増やしたり、作物の栽培や収穫物の調理体験、食品の流通加工現場の見学などを推進したりするとともに、生産者との交流に必要な情報の提供等を行います。</p>
<p>&lt; 1 - 3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために &gt; p43 p45 のフードバンク活動を「もったいない」の項目にも入れたい。 ( 1 )は食生活における取組、( 3 )は生産側の取組として区分しているが、わかりにくいいため修正した。</p>	<p>( 1 )「もったいない」意識の浸透と実践  ( 3 ) 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底 農林水産業における化学肥料や化学合成農薬の低減や資源循環の推進、食品産業における食品リサイクルの推進などに取り組むとともに、それらの取組について社会的な理解が進むよう努めます。</p>	<p>( 1 ) 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践  ( 3 ) 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底 農林水産業における化学肥料や化学合成農薬の低減や資源循環の推進、食品産業における食品リサイクルの推進など、生産・流通する側も「もったいない」意識を持って環境への配慮を徹底するとともに、それらの取組について社会的な理解が進むよう努めます。</p>
<p>p44 世界の食の不均衡を知ること必要。国際理解を学校教育でも取り組んでほしい。 食料事情などの学習の記述を追加した。</p>	<p>ア 生物多様性の保全など農林水産業の役割への理解促進 [地域] 食料の供給のみならず生物多様性の保全など多様な機能を有している農林水産業の重要性について正しく理解し、「農のある暮らし」が実践できるよう、全年代に向けて様々な方法で知識の啓発や情報提供を行います。</p>	<p>ア 生物多様性の保全など農林水産業の役割への理解促進 [学校・地域] 食料の供給のみならず生物多様性の保全など多様な機能を有している農林水産業の重要性や世界の食料事情などについて正しく理解し、「農のある暮らし」が実践できるよう、全年代に向けて様々な方法で知識の啓発や情報提供を行います。</p>

(5) プラン2015(案)の修正を要しない意見の概要

プランの項目	意見の概要	対応	
総論	今回のプランではライフステージと生活場面に応じた食育が提案されており、日常生活に組み込みやすくなっている。もっと一目見てわかりやすいようにキャッチフレーズを付け、計画全般にインパクトを出してはどうか。計画はしっかりした内容。しかし市民全体に周知してあるかが心配。発信力を強くしたほうがよい。全体としてわかりやすくなった。踏み込んだ記述、今必要な取組、一緒に取り組みたい内容が随所にみられる。	感想 記載済 推進対応 感想	
これまでの取組の評価と今後の展開	消費者として食に対する不安を解消するための行動や対策が示されていない。配膳マナー、箸マナーの低下は改善したい。大人の食意識を高めるべき。大人の意識がアップしないと、子どもはなおさらアップしない。	記載済 感想 記載済	
あいちの目指す食育	生活の場面で幼稚園保育所と学校がつながっていない。また職場もつながっていない。ぜひ繋げてほしい。乳幼児期は生活リズムを整え、自分でやりたがる興味を大切に食への関心を持たせるとよい。地域の中で住民と諸団体が連携して一緒に解決をするネットワークを広げて行く事がこれから必要になる。朝食で野菜を食べるために主食をご飯にすることを勧めたい。もっとご飯を食べる子どもを増やしたい。県民の主体的な取組や、県・関係団体等の取組にも具体的な数値目標を設定してはどうか。(多様な関係者の共通目標として主要項目に設定) 国やWHOの目標である「12歳児における1人平均むし歯数 1歯以下」を目標にしてはどうか。(本県達成済) 「家族や友人と食べる」目標について、単独世帯が多くなっているため、家族以外の人との会食の目標は大いに進めたい。	記載済 記載済 記載済 記載済 その他 その他 感想	
県民の主体的な取組	年齢区分設定の少年・青年期は、子どもの成長にあわせてもう少し段階があるとよい。	推進対応	
県や関係団体等の取組	1-1 食を通じて健康な体をつくるために	3歳児までの「子育て世代」は目の前の子育てに四苦八苦しており、食べる工夫を親子で一緒にすることが大切な視点。子どもが学校から食育のパンフレットを持ってきたが、事前に説明されなかったとのこと。手渡す際にはちょっとした説明でもあればと感じた。小学生の摂食状況や食への関心にバラツキがある。親への食育ではなく、小学生に対し食への主体的な興味を持つよう深い勉強をさせた方がよい。大学生協で学生食堂事業などを通じ食育活動に取り組んでおり、新プランで学生食堂での取組に触れているのは心強い。思春期・妊婦の痩せは重要な問題。もっと大々的に取扱うべき内容。学生の食の課題への対処として、このプランにより幼少期から総合的な知識が養われ、料理教室も有意義。男性向けの料理教室はひとり暮らしの男性に特に有効。普及促進と、参加しやすい環境づくりを願う。食中毒の危険性について今まで以上の積極的な情報発信を希望する。	推進対応 推進対応 記載済 感想 記載済 感想 記載済 推進対応
	1-2 食を通じて豊かな心を育むために	体験交流を広げるには、行政側で主たる窓口と関係性をもって、地域性を伴った中で実施されることが良い。生産現場を理解するためにもっと工場見学の一般募集があってもよいし、企画が少ないように感じる。体験だけで終わらず、休耕地を活用しファミリー単位で農作業できる仕組みづくりが必要。竹下和男先生が進めてきた「お弁当の日」を進めていけたらよい。県内の小学校長に呼びかけてほしい。(同じ目的で「調理コンクール」を実施) 昔食べたもの、残していきたい食事、特に家庭の味のような伝統料理を大事にしていきたい。	記載済 記載済 記載済 その他 感想
	1-3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	環境に配慮した食生活の実践については、学校でも取り組みたい。規格外の野菜の活用方法をもっと考えるべき。そうすれば農薬や化学肥料なども減らせるのでは? 環境の分野でも、子どもと親と一緒に取り組める次世代型の体験学習活動もあるのでは。環境に配慮した食材の選択に関して、「金銭教育」も加えてはどうか。(金銭面の「もったいない」とは必ずしもリンクしない)	記載済 推進対応 推進対応 その他
	2 食育を支えるために	栄養学科で学んだ人でも、食に携わる仕事に就く人はあまり多くない。知識を提供できる機会や食の知識を伝える立場の人を増やしてほしい。行政が中継ぎすることで食育推進ボランティアは活動の幅が広がる。食育推進ボランティアに若い世代が参加できるようになるとよい。また、幼・保・小学校とのコーディネートも必要。食育に関わりたいと思っている大人はたくさんいる。学校等から要望を出し、対応できる人材を送れるシステムが必要。食に携わる多様な人材の育成と活動の促進は非常によいこと。食に興味のない人も食について考え直す機会が増える。行政が進めている活動とコープあいちのアドバイザーが協働できたらよい。食育検定については、是非受けてみたい。口コミで広がれば検定の知名度も上がり、食を考える機会も増える。農林水産省が女性ファッション誌と連携して食育推進を始めたが、県でも見習って地元情報誌や地元TV番組とタイアップしてはどうか。小学生が幼稚園に出かけ、独自の食育劇を上演している事例があり、学校がとても上手に食育を指導していると感じた。	記載済 記載済 記載済 記載済 感想 記載済 感想 記載済 感想

2 その他の修正事項（パブリック・コメント後、食育推進計画検討会で検討したもの等）

修正要旨	これまでの記述	修正案
<p>&lt; プラン作成の経緯 &gt; p2 「食育」及び「愛知県食育推進会議」についての説明を追加した。</p>	(なし)	(枠で囲んで語句説明。詳細はプラン案参照。)
<p>&lt; これまでの取組の評価と今後の展開 &gt; p6 表題下の前文に、「展開」の記述を追加した。</p>	平成 18 年 11 月に作成した...着目して評価しました。	平成 18 年 11 月に作成した...着目して評価するとともに、今後の展開として取組の方向を示しました。
<p>&lt; 1 - 1 食に関わる「体」の視点 &gt; p6 朝食の欠食等の現状に係る文が説明不足の上、22 年度データを加えると分析に変更が必要のため、記述を見直した。</p>	<p>朝食の欠食割合は小中学生で改善、高校生以降は停滞 朝食の欠食や...食生活のリズムに乱れがみられます。 朝食の欠食については、小中学生では学校と家庭の連携による啓発の結果、改善傾向にあります。 一方、高校生以降においては改善が停滞しています。</p>	<p>朝食の欠食割合は全体的に顕著な改善みられず 単独世帯の増加や生活スタイルの夜型化などを背景に私たちの食生活は大きく変化し、朝食の欠食や...食生活のリズムに乱れがみられます。 朝食の欠食については、全体的に顕著な改善がみられません。 子どもが毎日朝食をとることについては、「早寝早起き朝ごはん」運動など学校と家庭の連携による取組を進めており、栄養教諭を配置した学校においては、継続的な食に関する指導により改善が図られています。</p>
<p>&lt; 1 - 3 食に関わる「環境」の視点 &gt; p11 「食品ロスの現状」の表中に、食用仕向量・食品ロスの意味を注記した。</p>	(なし)	<p>食用仕向量...国内外から調達された農林水産物のうち食用に向けられた量 食品ロス量...食品廃棄物のうち、本来食べられるにもかかわらず廃棄されている量 (規格外品、売れ残り、食べ残し、過剰除去、期限切れなど)</p>
<p>p12 「もったいない」の言葉を用いた意図を記述した。(記述は 16 年版環境白書を参考)</p>	私たちの身近な食生活における環境への負荷の軽減のため、「もったいない」意識の浸透を...	日本には、自然を敬う暮らしの中で生じた、モノの本質的な値打ちが生かされないことを惜しむ「もったいない」という言葉があります。私たちの身近な食生活における環境負荷の軽減に向け、この「もったいない」意識の浸透を...
<p>&lt; あいちの目指す食育 &gt; p16~18 「基本コンセプト」と、「取組の特徴」とを別項目にし、「目指すべき姿」の下図を「基本コンセプト」の後に掲載した。</p>	<p>2 プランの基本コンセプトと取組の特徴 (1)基本コンセプト ~啓発から実践へ~ (2)取組の特徴 3 食育の目標</p>	<p>2 基本コンセプト「啓発から実践へ」 3 取組の特徴 4 食育の目標</p>
<p>&lt; 4 食育の目標 &gt; 全体として、数値の出典を記載した。</p>	(なし)	(「3 食育の目標」の各ページ下に記載)
<p>p24 目標の記述において「減少させます」や「増加させます」は、自主的な実践の促進に馴染まない表現のため、記述を見直した。</p>	<p>「 朝食の欠食割合」 及び 「 肥満・やせの割合」 ...割合を減少させます。 朝食に野菜を食べている小中学生の割合 ...割合を増加させます。</p>	<p>「 朝食の欠食割合」 及び 「 肥満・やせの割合」 ...割合を減らします。 朝食に野菜を食べている小中学生の割合 ...割合を増やします。</p>
<p>p26 「農林水産業に親しむ県民の割合」の項目に活動の例示を追加した。</p>	また、農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合を 60%以上にします。	また、農林漁業体験、市民農園、援農、農村環境保全活動など、農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合を 60%以上にします。
<p>p28 愛知県食育推進ボランティア以外の取組も集計対象としてはとの意見があったが、県として支援のために登録を進めていることに加え、対象を限定しないと数字の把握ができないため、目標は現行どおりとした。 なお、登録制度の趣旨を明記した上で、あくまでも「指標」としての数値である旨を記した。</p>	<p>食育推進ボランティアから食育を学んだ人数 食育を推進し、その成果をあげるためには、県民一人ひとりが食育に関心を持つだけでなく、自ら実践することが重要です。 地域に根ざした食育の推進活動を行う「愛知県食育推進ボランティア」から食育を学んだ人数を年間 10 万人以上にします。</p>	<p>食育推進ボランティアから食育を学んだ人数 県民一人ひとりが食育に関心を持つだけでなく、自ら実践するためには、地域で自主的に食育活動に取り組む多様な人材から知識や技術を学ぶことが効果的です。 愛知県では、地域で食を学ぶ機会が拡大するよう、こうした食育に携わる方々に対し「愛知県食育推進ボランティア」として登録いただき、その活動を支援しています。 食育に携わる人材を通じた学びの状況を示す指標として、「愛知県食育推進ボランティア」から食育を学んだ人数を年間 10 万人以上にします。</p>



修正要旨	これまでの記述	修正案
< 県民の主体的な取組 > p30 表全体の説明文を追加した。	(記述なし)	あらゆる世代の県民が健全な食生活を送るには、生涯にわたる切れ目ない食育が必要です。 それぞれのライフステージに応じた食育を、できることから主体的に取り組みましょう。
< 県や関係団体等の取組 > < 1 - 1 食を通じて健康な体をつくるために > p34 (p46) 食育は理念的な取組のため、指導計画より上位の保育課程、教育課程とした。	保育所の保育計画や幼稚園の指導計画の中に地域に応じた食育を位置付けるとともに、...	保育所の保育課程や幼稚園の教育課程の中に地域に応じた食育を位置付けるとともに、...
p35 「指導者養成講座」の名称を変更したため修正した。また、「親子給食」を、より開催しやすい「給食試食会」とした。	...教員を対象とした食に関する指導者養成講座を開催します。 ...家庭で食が話題となるよう「食育だより」の配付や親子給食などを開催します。	...教員を対象とした学校食育推進者養成講座を開催します。 ...家庭で食が話題となるよう「食育だより」等を配付するとともに、給食試食会等を開催します。
p35 栄養成分表示の推進について、主目的から判断し「(3)食の安全」から「(1)バランスのとれた食生活」に位置付け直した。	(1) バランスのとれた規則正しい食生活の実践 オ 青年期以降における健全な食生活の実践の支援 学校・職場・地域 食育について男性も ... 促進を図ります。 また、飲食店や ... 環境整備に努めます。  (3) 食の安全に関する信頼の構築 ア 食品表示の適正化や栄養成分表示の推進 地域 食品事業者に対して ... 適正化を推進します。 また、飲食店等における栄養成分の表示を...推進します。 なお、食品表示に関する研修会や...	(1) バランスのとれた規則正しい食生活の実践 オ 青年期以降における健全な食生活の実践の支援 学校・職場・地域 食育について男性も ... 促進を図ります。 また、飲食店や ... 環境整備に努めます。 なお、飲食店等における栄養成分の表示を...推進します。  (3) 食の安全に関する信頼の構築 ア 食品表示の適正化の推進 地域 食品事業者に対して ... 適正化を推進します。 なお、食品表示に関する研修会や...
p37 過度な痩身の影響について、思春期の子どものみならずその保護者への啓発も追加した。	...必要な知識を普及啓発します。	...必要な知識を児童生徒とその保護者に対して普及啓発します。
p38 HACCP導入に関する表現を見直した。	また、食品製造施設等への「愛知県版HACCP」の導入を促進し、加工段階における食の安全性の確保に努めます。	また、「愛知県 HACCP 導入施設認定制度」により食品製造施設等へのHACCPシステムの導入を促進し、県内の食品関連事業者の自主衛生管理水準を高め、食の安全性の確保に努めます。
< 1 - 2 食を通じて豊かな心を育むために > p39 食に関する感謝等の心を端的に表す「いただきます」「ごちそうさま」「もったいない」のキーワードを明記した。	家族や友人と食事を楽しむなど、食を通じて互いの心に触れ合うとともに、子どもから大人まで動植物の命をいただくことへの感謝の念を深めるなど、食を通じて豊かな人間性を養うことが大切です。	私たちが普段口にしている「いただきます」「ごちそうさま」「もったいない」という言葉には、動植物の命や食に関わった人々への感謝の念、あるいは物を大事にする心が込められており、こうした思いを大切にしながら、家族や友人との食事等を通じて互いの心に触れ合うとともに、子どもから大人までが食に関する感謝の念や食文化等への理解を深め、豊かな人間性を養うことが重要です。
p41 個人的な印象が強い表現を改めた。	食物アレルギーや宗教上の理由により...	食物アレルギーや文化の違いにより...
< 1 - 3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために > p43 「もったいない」の意図を記述した。	食べ残しや食品の廃棄を減らすとともに、身近な...が環境への負荷の軽減につながります。また、農林水産業や食品製造業においても環境への配慮が必要であり、	資源の本来の価値を大切に「もったいない」の心を持って、食べ残しや食品の廃棄を減らしたり身近な...が、環境への負荷の軽減につながります。また、農林水産業や食品製造業においても環境への配慮が必要です。
p44 「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の実現」の記述について、「食と緑の基本計画2015」に沿った表現に修正した。	消費者が求める農林水産物やそれに付随する情報・サービスなどを提供するとともに、それらの“よさ”(価値)を消費者へ適切に伝えるための取組を推進し、生産から消費までの各段階に関わる者が農林水産物等の“よさ”を共有できる関係を築きます。	生産者をはじめ、加工、流通、販売等に携わる者が連携して、多様化する消費者のニーズ(消費者の“思い”)に応えられる新たな商品やサービスを提供するとともに、商品等のセールスポイントや生産のこだわり(生産者等の“思い”)を消費者までしっかり伝える工夫をすることで、消費者と生産者がともに満足できる関係を築きます。